

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

タマネギ苗床からのべと病対策を徹底しましょう

タマネギべと病菌は、土中に卵胞子として残ります。卵胞子によるタマネギへの感染は、苗床と本圃のいずれでも起こり、翌年春には越年罹病株（一次感染株）として発病します。苗床および本圃の準備段階からの対策を行うことで、一次感染株の発生が抑制され、春期の蔓延防止につながります。

については、下記事項を参考に対策を徹底するよう生産者への指導をお願いします。

記

【防除対策】

1. 苗床

1) 病原菌のない苗床で育苗することが重要である。苗床での雑草対策として、広く普及しているバスアミド微粒剤の土壌表層混和处理は、べと病の感染抑制効果にも優れることが、近年、明らかになった（参考データ表1参照）。地床育苗あるいはトレイ育苗であってもトレイを地面に接して育苗する場合には、バスアミドによる土壌消毒を確実に実施する。

バスアミドは、土壌中の水分によって分解され効果を発揮するため、土を握ってくずれない程度の土壌水分の状態で、本剤を処理する。また、処理後は、土壌をビニル等でしっかりと被覆する（写真1）。地温と被覆期間の目安は以下のとおりであるが、薬剤の使用量、使用時期（播種までの日数）、被覆資材除去後のガス抜き等については、定められた使用方法を遵守する。

地温	10～15	15	20	25 以上
被覆期間	20～30日以上	14～20日	10～14日	7～10日



写真1 バスアミドによる土壌消毒(処理後にビニル被覆している状態)

- 2) 罹病苗を本圃に持ち込まないために、苗床での薬剤防除を確実にを行う。
- 3) 苗床での育苗期間が長くなると、苗床での感染の危険性が高まるので、育苗および定植は、計画的かつ適期に行う。

2. 本圃の準備

可能な限り、これまで本病の発生のない圃場に作付する。さらに、暗渠、明渠や高畝による排水対策を行うとともに丁寧に耕起し、べと病の発生しづらい環境づくりを行う。なお、本圃の準備は時間に余裕をもって行う。

【参考データ】

表1 バスアミド微粒剤(20kg/10a)表層混和処理のタマネギべと病に対する防除効果(一次感染の抑制効果)

試験	バスアミド処理		べと病一次感染株の発生 ^{注3)}		
	処理の有無	処理日	調査株数	累積発病株率	調査期間
1 ^{注1)}	有り	2017年9月1日	1583	0.06%	2018年1~4月
	無し	—	1553	7.2%	
2 ^{注2)}	有り	2017年9月8日	4800	0%	2018年1~4月
	無し	—	2400	4.6%	

注1) べと病残渣をすき込んだ苗床予定地にバスアミドを処理し、20日間ビニル被覆。ターザンを9月28日に播種して育苗後、12月15日に本圃に定植。農業試験研究センターが行った試験。

注2) 前作でべと病が多発生した圃場を苗床予定地としてバスアミドを処理し、21日間ビニル被覆。ターザンを10月2日に播種して育苗後、12月1日に本圃に定植。上場営農センターが行った試験。

注3) 試験1、2ともにタマネギ苗は、べと病菌の汚染のない本圃に定植し、1~4月に約2日間隔で一次感染株の発生数を調査した。一次感染株は、見つけ次第、抜き取り処分した。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
〒840 2205 佐賀市川副町南里1088
TEL (0952)45 8153 FAX (0952)45-5085